平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
名古屋工業大学

目 次

資料 1 - 1	平成 20 年度大学院再編整備	1
資料 1 - 2	第 1 期中期目標期間における大学院進学率の推移（工学部第一部）	1
資料 2 - 1	名古屋工業大学基金名古屋工業大学学生研究奨励取扱要領（抜粋）等	2

資料 1 - 1 : 平成 20 年度大学院再編整備

専攻名		専攻名	
基盤専攻	物質工学専攻	基盤専攻	物質工学専攻
	機能工学専攻		機能工学専攻
	情報工学専攻		情報工学専攻
	社会工学専攻		社会工学専攻
独立専攻	産業戦略工学専攻	独立専攻	産業戦略工学専攻
	都市循環システム工学専攻 (廃止)		未来材料創成工学専攻 (新設) 【専攻概要】 エネルギー・資源問題、環境問題、医療問題を解決し、持続発展可能な近未来循環型社会を構築することは、世界的な緊急の課題である。本専攻では、ナノスケールの根本原理にのっとり、環境親和性、エネルギー変換効率、生体機能性に優れた夢の未来材料の設計・創製を支える高度な研究を行っており、環境調和セラミックス工学、エネルギー変換工学、ナノ・ライフ変換科学に関する基礎から応用にいたる専門分野について、広い見地で専門知識、技術を持ち、わが国のみならず世界に活躍できるリーダーを育成する。
			創成シミュレーション工学専攻 (新設) 【専攻概要】 本専攻は、コンピュータシミュレーションとネットワークシステムを共通手法として異分野融合による新分野創成を積極的に進め、コンピュータを高度に活用し産業界を拡大発展させる人材を育成する。このために、コンピュータがもつ強力な計算、検索、表現、通信などの能力を最大限に発揮する手法を開発、駆使することと異分野の知識を寄り合わせるにより、これまででは想像することすら難しかった複雑な工学上の解決法を探求し、経験を超える新しい知の地平線を越えた工学の創成を目指す。

資料 1 - 2 : 第 1 期中期目標期間における大学院進学率の推移 (工学部第一部)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
卒業者数	901 名	941 名	891 名	902 名	937 名	901 名
進学者数	536 名	573 名	541 名	543 名	626 名	614 名
進学率	59.5%	60.9%	60.7%	60.2%	66.8%	68.1%

別添資料 2 - 1 : 名古屋工業大学基金名古屋工業大学学生研究奨励取扱要領 (抜粋) 等

名古屋工業大学基金名古屋工業大学学生研究奨励取扱要領 (抜粋)
<p>(目的)</p> <p>第2 学生研究奨励は、学会発表、論文発表等を活発に行い実績を上げている名古屋工業大学 (以下「本学」という。) 大学院工学研究科及び工学部に在学する学生 (以下「大学院学生」及び「学部学生」という。) に奨励金の給付を行い、本学の教育研究活動の活性化に資することを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第3 学生研究奨励は、大学院学生及び学部学生に対する奨励金の給付の事業を行うものとする。</p> <p>(給付額及び給付人数)</p> <p>第6 第3に規定する奨励金の給付額は、10万円又は5万円とする。</p> <p>2 給付人数は、各年度について、10万円は10名、5万円は40名とする。</p>
名古屋工業大学基金名古屋工業大学奨学金取扱要領 (抜粋)
<p>(目的)</p> <p>第2 奨学金は、名古屋工業大学 (以下「本学」という。) が実施する入学者選抜試験の成績が最上位で本学に入学した学生に奨学金を支給することにより、意欲をもって入学する学生の確保に資するとともに、本学の教育研究を活性化することを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第3 奨学金は、本学工学部に入学者選抜試験の最上位で入学した学生に奨学金の給付の事業を行う。</p> <p>(給付学生数)</p> <p>第7 奨学金を給付する学生は、各年度について、各学科1名とする。</p> <p>2 工学部第二部の学生は、前項に規定する各学科1名に含め、第二部物質工学科は第一部生命・物質工学科に、第二部機械工学科は第一部機械工学科に、第二部電気情報工学科は第一部電気電子工学科に、第二部社会開発工学科は、第一部都市社会工学科にそれぞれ含めるものとする。</p> <p>(給付額)</p> <p>第8 奨学金の給付額は、1名当たり30万円とする。</p>
名古屋工業大学基金名古屋工業大学ダブルディグリープログラム支援取扱要領 (抜粋)
<p>(目的)</p> <p>第2 ダブルディグリー支援は、名古屋工業大学大学院工学研究科博士前期課程 (以下「博士前期課程」という。) に在学し、大学院でダブルディグリーを取得するために海外の大学に留学する学生に対し支援を行い、国際的視野を持った有用な人材を育成するとともに、国際交流に資することを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第3 ダブルディグリー支援は、博士前期課程に在学する学生 (外国人留学生は除く。以下「学生」という。) に対し、海外の大学への渡航費及び学資援助金 (以下「渡航費等」という。) の給付の事業を行う。</p> <p>(支援学生数)</p> <p>第7 ダブルディグリー支援学生数は、各年度について原則として2名とする。</p> <p>(給付期間及び給付額)</p> <p>第8 第3に規定する学資援助金の給付期間は、海外への大学の留学期間とする。</p> <p>2 渡航費等は、合わせて100万円とする。</p>
名古屋工業大学基金名古屋工業大学NIT国際工学賞海外派遣取扱要領 (抜粋)
<p>(目的)</p> <p>第2 海外派遣は、名古屋工業大学 (以下「本学」という。) の学生を海外の大学 (以下「受入大学」という。) に派遣し、本学における教育研究分野の国際交流を活性化し、国際的視野を持った研究者を育成するとともに、国際交流に資することを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第3 海外派遣は、本学大学院工学研究科に在学する学生 (外国人留学生を除く。以下「学生」という。) に対し、海外の大学への渡航費及び滞在費 (以下「渡航費等」という。) の給付の事業を行う。</p> <p>(派遣学生数)</p> <p>第8 海外派遣学生数は、各年度について原則として2名とする。</p> <p>(給付額)</p> <p>第9 渡航費等は、100万円を超えないものとする。</p>
名古屋工業大学基金名古屋工業大学学生プロジェクト支援取扱要領 (抜粋)
<p>(目的)</p> <p>第2 プロジェクト支援は、名古屋工業大学 (以下「本学」という。) の学生が個人又はグループで学外機関が実施するコンペティションなどの行事 (以下「学外行事」という。) に参加するために必要な経費を支援することにより、本学の学生生活動の活性化に資することを目的とする。</p> <p>(事業)</p> <p>第3 プロジェクト支援は、本学学生が学外行事に参加するために必要な経費の給付の事業を行う。</p> <p>(給付額)</p> <p>第8 プロジェクト支援の給付額は、各年度について、個人の場合は2万円を超えないものとし、グループの場合は1人当たり2万円かつグループ全体で10万円を超えないものとする。</p>